

|         |  |         |         |
|---------|--|---------|---------|
| 氏名      | 内 田 俊 明  |         |         |
| 学位の種類   | 医 学 博 士  |         |         |
| 学位授与番号  | 乙 第 1714 号                                     |         |         |
| 学位授与の日付 | 昭和61年12月31日                                    |         |         |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）                       |         |         |
| 学位論文題目  | 心エコー図法による僧帽弁狭窄症の左室機能の評価（特に弁下部病変を含めた形態学的変化との関連） |         |         |
| 論文審査委員  | 教授 寺本 滋  | 教授 太田善介 | 教授 木村郁郎 |

### 学位論文内容の要旨

心エコー図法を用いて僧帽弁狭窄症の左室機能について検討した。左室機能を検討するためにエルゴメーターによる運動負荷を施行した。心エコー図法より求めた駆出率の妥当性は Radionuclide angiography から得られた駆出率と比較することにより行った。更に、弁下部病変の定量的評価法として左室の変形率（DR）を考案し、左室機能との関係について検討し、以下の結論を得た。

- 1) 心エコー図より求めた駆出率は十分信頼し得た。
- 2) 左室機能と僧帽弁口面積は直接関係なく、運動負荷による心機能の異常には前負荷及び後負荷の関与が大きかった。
- 3) 左室変形率は弁下部病変の従来の指標と密接な相関を示した。
- 4) 左室の変形率と駆出率の間には高い相関関係があることから、僧帽弁狭窄症では安静時、弁下部病変により左室の変形を生じ、ひいては左室の収縮低下を来たしているものと考えられ、手術による左心機能の改善には左室の変形が解除されることも関与していると考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は僧帽弁狭窄症に関する臨床的研究であるが、心エコー図法を用いて僧帽弁狭窄症における弁下部病変及び左室の形態学的変化との関連を検討した結果、左室機能の評価上重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。